

# 一般質問

9月定例会



内藤 眞一 議員

## Q 気象情報の提供・周知を問う

6月定例会の質問に対し、町長は「体制・周知は完備され、さらに町民みずからも危険回避行動を」と回答があった。先の広島市の災害報道では、行政の対応は適切だったかとの意見がある。情報提供には、的確な気象情報の収集・周知が必要と思う。

## A 適時適切な情報共有で

町長 山崎 英樹

適時適切な情報共有は大切だと思う。

気象台の講習会は、市町村を対象にしていないが、本年度から気象台専門官が市町村へ出向いて勉強会が予定されている。

役場の防災担当職員は常に情報収集・提供に努める。町民も早目にしかるべき行動を取られるよう望む。

また、職員の情報伝達訓練は10月に実施し、災害に対する心構え等、今後も引き続き緊張感を持って対応していく。



望まれる有害鳥獣対策

## Q 有害鳥獣対策を

全員協議会で有害鳥獣捕獲の説明時、猟銃保有拡大に「警察・自衛隊OBに協力を」との意見があった。

更に、本年の町政座談会志々会場でも「高齢化で猟友会員が減少し、イノシシ駆除に手が回らない。行政で対応して欲しい」との意見があったが、職員が猟銃・わなの免許取得をすべきではないか。

また、環境省の来年度概算要求に「イノシシ・鹿の調査・捕獲に20億円を計上」とある。この予算を活用し、有害鳥獣対策を推進すべきと思うがどうか。

## A 免許取得へ啓発・支援

町長 山崎 英樹

ご意見のように、警察、自衛隊OBへの協力を促したい。

また、銃の購入助成は、他県の事例を検証した上で、関係機関と協議・検討する。

職員は「小型動物捕獲従事者安全講習会」で資格を取得している。狩猟免許は、邑南町で「わなの免許取得」を実践している。調査し、来年度に向け検討する。銃の免許取得は全国的な事例を検証する。

また、集落などへの啓発活動も推進していく。

国の補助事業は、詳細な情報収集に努め積極的に活用し、有害鳥獣対策を推進していく。

# 一般質問

9月定例会



小野 覚 議員

## Q 振興計画の検証・評価は

次期飯南町総合振興計画策定に当たっては、これまでの計画の検証・評価が極めて重要で、その上に立って新しいスタートがある。そのような中で、定住促進、高齢者・障がい者に優しい環境、子育てしやすい環境、飯南高校の存続支援、本庁舎方式への移行等、成果は表れていると思う。

一方で目標に届いていない

## Q 終末医療を考える

日本ホスピス緩和ケア研究財団の調査では、80%の人が「最後は自宅で暮らしたい、看取られたい」、「余命が限られたとき自宅で過ごしたい」と答えている。

## A 定住対策、福祉医療で成果

町長 山崎 英樹

旧頓原・赤来両町の融和と活力のある町づくりを基本として、産業の振興、雇用と連動した定住対策に力を注いできた。福祉医療の分野とともに一定の成果が出せたと思っている。

平成25年度現在、総合振興計画で目標設定した84項目のうち、達成しているのは28項目。

目で、半分以下ではあるが、残された期間で達成できるように努力する。

次期計画はこれまでの施策を十分に検証したうえで、重点事業については継続しつつ、方向修正、廃止も含めた計画策定を考えている。

## A 体制は整えている

町長 山崎 英樹

在宅医療の推進は、医療・看護体制は整っているが、家族の協力が得られるかが課題だ。

本町では、飯南病院の常勤医師4名の往診、訪問看護サービスとの組み合わせで、在宅医療や介護に対する不安をなくすことができる。希望に添えるよう体制は整えていると思



しかし、現実には病院で亡くなる人が80%で、自宅で息を引き取る人が12%だ。

困難は多くあるが、たとえ一家族でも「我が家で看取られたい、看取りたい」との希望があれば、それがかなえられる体制作り而努力する必要があると考える。

